

大学生向けのリスニング力向上を目指す授業における工夫

Some tips on developing listening ability of university students

長田 宣子

早稲田大学 非常勤講師

Abstract

This paper aims to introduce some tips about how to develop listening ability of university students. Movies are often used in English listening classes. They are very good materials in that they can motivate students and that they can show a wide variety of English including age, class, cultural, and regional differences. In this introductory course of listening comprehension, students are required to (a) raise their consciousness about listening comprehension, (b) learn how English speeches are connected, (c) choose one favorite movie and make dictation exercises for the class, and (d) transcribe the film as much as possible.

キーワード：英語の聞き取り (listening comprehension), 映画 (movies), 意識改革 (consciousness raising), 音の連続 (connected speech)

科目名	英語メディア・コンプリヘンション (選択科目)
対象者とクラス人数	大学2年生以上 30名
学習の目標	初級程度の字幕付き映画等の教材を使用し、英語の聴解能力を養う。

1. はじめに

この科目は大学2年生以上を対象とした、半期の選択科目である。映画を教材として用い、主に聞き取りの訓練をすることを目的としている。到達目標は「各自の聞き取りの弱点を把握し、できるだけ日本語字幕の助けなしで映画を見ることができるようになること」である。

1.1 授業内容

授業内容として以下のような5つの柱を設定した：

- (1) 聞き取りの訓練をする。
- (2) 発音練習をする。
- (3) 書き言葉には見られない口語表現を学ぶ。
- (4) 日本語字幕と実際の英語の違いを考える。
- (5) 英語に特徴的な音声現象（同化・連結・脱落）の仕組みを学び、聞き取りを困難にする原因を探る。

この科目の目的はリスニング力の訓練であるが、発音練習を取り入れることにより、英語音声と日本語音声の違いを実感してもらった。また、映画を題材にしているということから、書き言葉と話し言葉の違いや、日本語字幕と実際の英語の台詞との相違についても扱った。さらに、リスニング力の向上には **bottom-up** 的なアプローチも必要であることから、同化・連結・脱落といった、英語に特徴的な音声現象について説明し、学生が聴解を困難にしている原因を探る手だてとした。

半期の授業計画は以下の通りである：

- 第1回 ガイダンス（リスニング力判断表と映画英語について）
- 第2回～第5回 音声現象（30分）＋映画『シュレック』
- 第6回～第8回 音声現象（30分）＋映画『となりのトトロ』
- 第9回～第13回 学生による発表（1人15分程度）

内容に親しみを持つことができ、理解しやすい映画として、今期は『シュレック』と『となりのトトロ（英語音声版）』を選んだ。『シュレック』では、主に、書き言葉には見られない口語表現を学び、『となりのトトロ』では、日本語字幕と英語の台詞の違いを学ぶことを主眼に置いた。前者は、西洋のおとぎ話のエピソードがふんだんに取り入れられており、台詞に二重の意味が込められているなど、アニメーションとはいえ大人にも十分楽しめる内容であることから、毎年学生に好評を得ている。後者の映画は、日本語台詞を英語に置き換えているため、「よろしくおねがいします」などの日本的な表現をどのように英語に訳しているのかが分かるため、日本語字幕と英語の台詞の違いを学ぶための教材として相応しいと考えられる。

2. 工夫(1): 学生の意識改革を図る

この科目は必修科目ではないため、英語を勉強しようという意欲のある学生が多い。しかし、これまであまり聞き取りの訓練をしてこなかったせいか、映画を字幕なしで見ること

ができるようになりたいといった漠然とした願望を持っている場合が多い。また、リスニング力を向上させるためには、何が必要かをよく理解していない学生も多い。ちまたの英語学習教材の宣伝文句として、「ただ聞き流すだけ」、「1日20分だけ英語を聞けばよい」など、語学学習に対する誤解をまねくものが氾濫しているため、この授業ではまず学生に対して以下のような問いかけをして、意識改革を促している：

- ・本当に映画でリスニング力が向上するのか？
- ・この科目を通して「字幕なしで聞き取れる」ようになれるのか？
- ・映画で使われる英語にはどのような種類があるのか？
- ・半期の授業で何を学ぶことができるのか？

2.1 映画を通して学べること

映画を教材に使うことによって、以下のような多くの事柄を学ぶことができる：

- (1) 異文化に触れることができる。
- (2) 書き言葉には見られない口語表現を学ぶことができる。
- (3) 日本語字幕と英語の台詞の違いを考えることができる。
- (4) インターネットで比較的容易にスクリプトを入手することができる。

しかし、同時に以下のような問題もはらんでいる：

- (1) 馴染みのない状況設定だと（文化の背景知識がないと）意味が取りづらい。
- (2) かなり崩れた（時にはスラング交じりの）英語を聞かなくてはならない。
- (3) 日本語字幕には、日本語でつじつまが合うように、台詞とはまったく関係のない表現が使われることもある。
- (4) インターネットで検索できる映画のスクリプトは数多いが、完全でないものが多い。

したがって、映画は映像がついている分、教材としては親しみをもちやすく、話の筋も理解しやすいが、逆に分かったような気になってしまい、深く理解していない場合が多いなど、長所と短所が背中合わせである。

2.2 字幕なしで映画を見るということ

また、「字幕なしで映画を見たい」という漠然とした願望を持つ学生は多いが、そのレベルまで達するにはどのくらいの労力がかかるのか、あるいは、どのくらい幅広い知識と能力が必要なのかが分かっていない場合が多い。この授業では、まずはじめに、学生に英語には多様性があることを紹介している：

- (1) アメリカ英語／イギリス英語／インド英語などのさまざまな種類についていけるか？（英語には地域差／年齢差／階級差／時代による英語の変化などもある）
- (2) 戦争もの／法廷もの／恋愛もの／SF ものなどの様々なジャンルの話題についていけるか？
- (3) 英語字幕では理解できるか？

3. 工夫(2):なぜ聞き取れないのか、常に問題意識を持つ

初回の授業では、何が聞き取りを阻害している原因なのかを、自分で考えてみる機会を与えた。CNNのWorld Newsより、鈴木イチロー選手が最多安打数記録を樹立したという短いニュースを取り上げ、簡単な穴埋め問題などをした後、各自の症例と原因を考えてもらった。

リスニング力診断表

症例	原因	
A 音を単語として認識できない	A-1	単語を知らない
	A-2	単語を知っているが、音と結びつかない
	A-3	いくつかの単語がかたまって、知らない音に聞こえる
B 単語は分かるのに文全体の情報が把握できない	B-1	文法など、構文が分からない
	B-2	文頭からの順送り理解ができていない
	B-3	背景知識が欠如している
C ゆっくりだと理解できるが、早口になるとついていけない	C-1	反応が遅い
	C-2	いくつかの単語がかたまって、知らない音に聞こえる
D 繰り返されると理解できるが、一回では無理	D-1	集中力が欠如している
	D-2	反応が遅い
	D-3	文頭からの順送り理解ができていない

篠田・水野・石黒・新崎 (2000) 『英語リスニング・クリニック』より一部抜粋

その結果をまとめたのが Figure 1 である。最も多かった症例は A の「音を単語として認識できない」といった bottom-up 的な部分であった。原因としては、A-1「単語を知らない」、C-1「反応が遅い」が最も多く、次いで B-2「文頭からの順送り理解ができていない」となった。このアンケートの目的は、統計的にリスニング力の困難点を明らかにすることではなく、学生が自分のリスニング力を振り返って、困難点となっている原因を考えるきっかけになることを意図したものである。

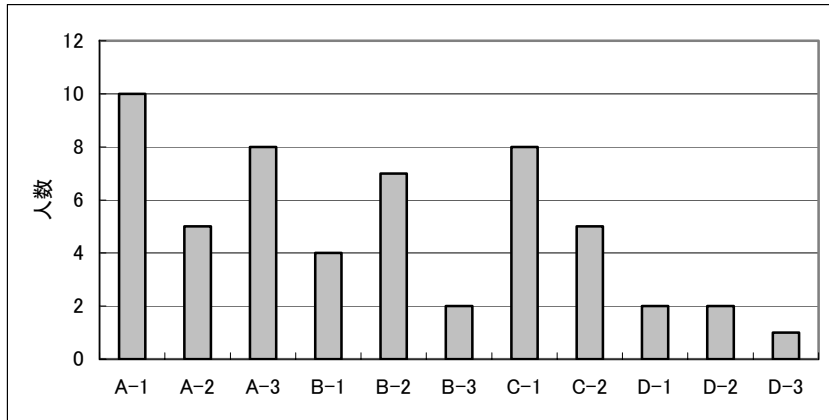


Figure 1. リスニング力診断結果（複数回答あり）

また、意識改革を促すだけでなく、折に触れて、なぜ聞き取れないのかという問題意識を常に持たせるように心がけた。例えば、学生に以下のような問いかけをした：

- (1) 知っている単語が並んでいるだけなのに、なぜ聞き取れないのか？
- (2) 聞き取れる単語と聞き取れない単語の違いは何か？
- (3) bottom-up 的知識が不足しているのか、top-down 的知識が不足しているのか？
- (4) 日本語字幕があると、どうしてもそちらに頼ってしまうが、まったくの字幕なしでどこまで理解できるか？

このようなやり取りの中から、内容語と機能語の違い、初頭性効果 (primacy effect) と親近性効果 (recency effect)¹などの話題も専門的になり過ぎない範囲で紹介した。常に問題意識を持つことにより、各自のリスニング活動を自己モニタリングし、メタ認知能力を高めることができると思われる。

4. 工夫(3):音声学的知識を利用する

リスニング力診断でも「音を単語として認識できない」という現象を少しでも改善するために、英語音声の特徴を音声学的に説明し、練習問題を取り入れた。あまり専門的になり過ぎない範囲で、以下の項目を中心に扱った：

- ・ 音の連続（語中の子音連続、語間の音連続、音の脱落、同化）を聞き取り、また発音することができるか？
- ・ アクセント（語アクセント、複合語アクセント、句アクセント、文アクセント、強形と弱形）を聞き、また発音することができるか？

特に強調した点は、アクセントである。日本語のアクセントは主としてピッチ（声の高さ）の高低によって語の意味が区別される高低アクセントである（竹林&斎藤, 1998）が、英語においては、高低に加えて強弱と長短がかかわってくる。したがって、アクセントがあるということは、その音節が「最も強く、また高く、そして長く」発音されるということを繰り返し強調した。

また、強形と弱形に関しても、次のように弱形が同じ発音になる機能語があるので、前後の関係から何の弱形かを判断する必要があるということを強調した。

- | | |
|---|---|
| 1. /s/, /z/=is, has
<i>Jáck is/ɰæks/ hère and Jóhn is/ɰánz ɰɔnz/ hère, tóo.
Jáck has/ɰæks/ finished writing.</i> | 4. /əv/=have, of
<i>The bóys have/əv/ éaten them.
the bóys of/əv/ Éton</i> |
| 2. /d/=had, would
<i>It was the bést picture I had/aid/ éver séen.
I would/aid/ líke to sée the picture.</i> | 5. /ən/=an, and
<i>in an/ən/ óffice
It ráined ón and/ən/ óff áll dáy.</i> |
| 3. /ə ə/=are, her, or ¹⁾
<i>The bóys are/ə ə/ Japanése.
Áll the júdges práised her/ə ə/.
I'll gíve it báck in óne or/ə ə/ twó dáys.</i> | 6. /əz/=as, has
<i>as múch as/əz/ she cán
Hòw múch has/əz/ she dóné?</i> |

竹林&斎藤 (1998) 『英語音声学入門』より一部抜粋

5. 工夫(4):興味のあるものをじっくり聞く①

全13回の授業のうち、後半の5回を学生の発表にあてた。映画はどうしても好みが変わるので、教師側が選んだものだけでなく、学生が自ら興味がある映画を選び、聞き取り問題を作成することにより、さまざまな種類の英語に触れることができ、新たな発見をもらえるのではないかという意図のもとに企画したものである。

発表は1人10分から15分程度で、レジュメを前もって用意してることが前提である。発表レジュメの例として、筆者が作成したものをあらかじめ渡した (Appendix 参照)。

学生が選んだ映画は多岐にわたっていた。以下に例を挙げる：

- Aladdin
- Babe
- Finding Nemo
- Ghost
- The Addams Family
- The Goonies
- The Green Mile
- The Matrix Reloaded

- ・ I am Sam
- ・ Inspector Gadget 2
- ・ Jerry Maguire
- ・ Monsters, Inc.
- ・ Moulin Rouge!
- ・ Mrs. Doubutfire
- ・ Shrek 2
- ・ Spy kids
- ・ The School of Rock
- ・ The hours
- ・ Toy Story
- ・ Troy
- ・ Harry Potter and the Sorcerer's Stone
- ・ もののけ姫
- ・ ルパン 3 世〜カリオストロの城〜

6. 工夫(5):興味のあるものをじっくり聞く②

この科目の評価方法は、出席点 3 分の 1、発表 3 分の 1、レポート 3 分の 1 である。授業時間だけでは聞き取りの訓練としては時間が短いため、レポートとして課題を与えた。指示は以下の通りである：

課題：映画を 1 つ選び、台詞の聞き取りをする。何度も聞き、これ以上聞いても分からないという時点になったら、インターネットなどで探したスクリプトをもとに間違っていた箇所、聞き取れなかった箇所を赤で直す。また、最後に、自分のリスニング力を分析する。

ページ数は 3 枚以上で、ページ数の多いもの、つまり、ディクテーションをした箇所が多ければ多いほど、評価を高いものにした。レポートも、手書きで構わないので、努力の跡が見えるようなものにするようにと注意した。

後期は冬休みを挟んでいるため、時間をかけやすかったと思われる。提出されたレポートを見ても、ほとんどの学生が 10 ページ以上書き取りをしており、時間をかけ、努力した跡が見られた。

7. おわりに

映画を教材に使うことには長所と短所がある。この科目は「初級程度の字幕付き映画等の教材を使用し、英語の聴解能力を養う」ことを目的としており、「映画を使ってリスニングをする」ということ以外は特に決められていないため、毎回試行錯誤しながら授業を進めてきた。この科目を担当するのは 3 年目であり、これまで通算 6 回のクラスを担当した。今回実践報告として紹介しているのは 3 年目の後期 (6 回目) のクラスである。実は 6 回とも違う内容の授業展開をしてきた。最終的に落ち着いたのは、筆者が選んだ映画の聞き取

り・発音練習を兼ねた音声学的知識の紹介・学生自身が選んだ映画の聞き取り，の3本立てである。この方法がベストであるとは到底言えないし，半期の授業でどこまでリスニング力を伸ばすことができるのかは甚だ疑問であるが，何か「聞き取りのコツ」のようなものがおぼろげにでも分かってもらえれば良いのではないかと考えている。

注

* 本稿は，2005年3月5日（土）に行われた TALK 研究会「分かってもらう授業の工夫」の一部として発表したものに，加筆修正を加えたものである。

1. リスト形式で提示された材料を銘記・学習する場合，各項目のリスト内でのその項目の位置の影響を受けることを系列位置効果（serial position effect）と呼ぶが，それぞれリストの最初にあった単語と最後に会った単語は，中央部よりも再生されやすい。それを初頭性効果（primacy effect）と親近性効果（recency effect）と呼ぶ（門田&野呂，2001）。

参考文献

竹林滋・斎藤弘子（1998）『英語音声学入門』大修館書店。

門田修平・野呂忠司（2001）『英語リーディングの認知メカニズム』くろしお出版。

篠田顕子・水野的・石黒弓美子・新崎隆子（2000）『英語リスニング・クリニック』研究社。

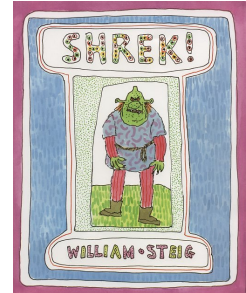
Appendix : 発表レジュメ例

2004年12月2日

長田 宣子 (1J0******)

■映画情報

- ① 邦題 : シュレック
- ② 原題 : Shrek
- ③ 製作年・国 : 2001年・アメリカ
- ④ 出演 : マイク・マイヤーズ (シュレック)
 キャメロン・ディアス (フィオナ姫)
 エディ・マーフィ (ドンキー)
 ジョン・リスゴー (ファークアード卿)
- ⑤ その他の特筆すべき情報 : 原作はウィリアム・ステイグの同名の絵本で (右参照), 製作はスピルバーグの Dream Works
- ⑥ あらすじ : 人里離れた沼のほとりに, シュレックという怪物が住んでいた。たった1人, 身を隠すように暮らしていたシュレックは, 人喰い怪物と噂されていたが, 実は優しい心を持った孤独な巨人だった。そんなある日, 彼の敷地に, おとぎ話の登場人物達が大量押し寄せてきたのだ。実は彼等はデューロック国の支配者で邪悪なファークアード卿によって国を追いやられ, 行き場を失ってしまったのだ。シュレックは自分の沼を取り戻す為, ロバのドンキーを引き連れ, ファークアード卿を訪ねるが, 元通りの生活と引き換えに, ドラゴンの城に囚われているプリンセス・フィオナを連れてくるよう条件を出されるのだった。こうしてシュレックとドンキーの冒険はスタートするが, 果たして2人は無事, プリンセスを救い出せるのか... ? ! (引用 : <http://movie.goo.ne.jp/contents/movies/MOVCSTD1231/story.html>)
- ⑦ 英語の聞きやすさ : ★★★★★ (最高★4つ)



■聞き取り問題

Shrek	① <i>What are you doing in my swamp?</i>	とにかく全員出てっくれ!
Shrek	{Echoing} Swamp! Swamp! Swamp!	
	Oh, dear!	
	Whoa!	
Shrek	All right, get out of here. All of you, move it! Come on! Let's go! Hapaya! Hapaya! Hey!	ほら早く さっさと! グズグズすんな! 行っ! 行っ!
	Quickly. Come on!	
Shrek	No, no! No, no. Not there. Not there.	中には入るな!
	Oh!	
Donkey	Hey, don't look at me. ② <i>I didn't invite them.</i>	オレのせいじゃ...
	Oh, gosh, ③ <i>no one invited us.</i>	“ここに住め” って
Shrek	What?	何だと?
	④ <i>We were forced to come here.</i>	命令なんだ
Shrek	By who?	誰の?
	Lord Farquaad.	ファークアード卿さ
	He huffed und he puffed und he..... signed an eviction notice.	僕たちを追い出す追放命令を出したんだ
Shrek	All right. Who knows where this Farquaad guy is?	分かった そのファークアードとかいう野郎はどこに?
Donkey	Oh, I do. I know where he is.	はい は〜い!
Shrek	⑤ <i>Does anyone else know where to find him?</i> Anyone at all?	他に居場所を知ってる者は? 誰か?

*イタリック部分は解答なので, 提出時には空欄にすること